本との出会いを楽しむ 第18回

世界一の図書館

アドミッションセンター助教　小暮　克哉

私の専門は高等教育論という分野です。主に近代の高等教育の歴史に興味があり、研究の対象としてきました。そうした分野の研究者からすると、弘前大学図書館は、その前身校である、旧制高等学校や師範学校、弘前医科大学時代からの貴重な蔵書など、宝の山ということができます。宝の山に徒歩一分で行ける環境にあることに何よりの喜びを感じつつ、色々な分野の本を読むことが何よりの楽しみでもあります。

そんな、本学図書館の中でも第一級の資料群として、最近個人的に関心があるのが、大正・昭和初期の官立弘前高等学校時代の行政関係の往復書簡など、本学の歴史的資料です。当然ですが、この分野の資料が世界で一番充実しているのが本学の図書館であります。世界一の図書館が徒歩一分。私にとっては、この上もない喜びです。

近年、色々な場所で大学史や自校教育の必要性が指摘されていますが、何故古い歴史に目を向ける必要があるのでしょうか。その答えの一つが、私の恩師である寺崎昌男先生の著書『大学の自己変革とオートノミー』の中にこんな一文として指摘されています。この指摘を思い出すたびに、高等教育史の研究意義を再確認させられます。

「現在の大学改革は戦後最大の改革だ、と言われることがある。だがそれは歴史の視野のもとで見れば誤りである。いま問われているのは、決して新しい課題ではない。戦後、現在の大学が生まれた時期こそ真の変革期であった。大学が今直面しているのは、あのとき以来未達成の、また潜在してきた諸課題を整理し、未来を見据えながらそれをどうやって解決するかという難問である。」

最後に、私自身は、高大接続などのために高校生や高校教員と接する機会が多いのですが、その際に、「弘大の強みは何ですか？」「弘大ならでは学びは何ですか？」という質問をよく受けます。現在進行形の大学改革を説明するとともに、その改革の中に弘大ならではの歴史的な太い幹を見つけ出し、そこから話を進めることで、弘大がそれをする必然性が現れると考え、そうした説明を心掛けています。

図書館を利用する皆さんも今後色々な場所で弘大のことを話す機会があるかと思います。是非、「自分は何故弘大で学ぶことにしたのか」、「弘大で学ばなければ得られなかったことは何か」を笑顔で話せるようになってもらえれば嬉しいです。そのヒントは、皆さんも歩いて行ける附属図書館にたくさん詰まっているはずです。

本の紹介の予定が附属図書館の自慢話になりました点お許しください。

（こぐれ　かつや）

小暮先生よりご紹介いただいた**「大学の自己変革とオートノミー」**（東信堂、1998年）は本館で所蔵しております。

所在：和図書(第1書庫2-5F)　請求記号：377.21||Te62　図書ID：06780735

官立弘前高等学校時代の資料群は貴重資料の扱いとなるため、利用を希望される場合は事前の書類申請が必要です。どのような資料を所蔵しているかは、目録をご覧ください。

「官立弘前高等学校資料目録 ： 北溟の学舎(まなびや)の資料群」（弘前大学附属図書館編）

所在：弘前大学出版会ｺｰﾅｰ　請求記号：A376.48||Ka58　図書 ID：07744957